

平成24年行政事業レビューシート

(農林水産省)

事業名	漁場環境・生物多様性保全総合対策事業費のうち海洋生物多様性国際動向調査事業			担当部局庁	水産庁		作成責任者		
事業開始・終了(予定)年度	平成20年度～平成24年度			担当課室	増殖推進部漁場資源課		漁場資源課長 内海 和彦		
会計区分	一般会計			施策名	⑮水産資源の回復				
根拠法令 (具体的な条項も記載)	-			関係する計画、通知等	水産基本計画(平成19年3月20日閣議決定) 農林水産省生物多様性戦略(平成19年7月6日決定)				
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	ワシントン条約(CITES)や生物多様性条約(CBD)等国際会議に係る漁業をめぐる国際的な動向について情報を収集し、理不尽な根拠等により我が国の漁業活動に必要以上に制限が加わることのないように適切に対応し、水産資源の持続的な利用を確保する。								
事業概要 (5行程度以内。別添可)	CITES、CBD等について国際議論の動向・提案の背景と妥当性の詳細な調査・分析、漁業活動への影響の評価、国際的な対応体制の構築及び普及啓発等を実施。								
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託・請負 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> 交付 <input type="checkbox"/> 貸付 <input type="checkbox"/> その他								
予算額・執行額 (単位:百万円)	予算の状況	当初予算	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度要求		
		補正予算	-	-	-	-			
		繰越し等	-	-	-	-			
		計	11	11	10	10			
	執行額		11	11	10				
	執行率(%)		100	100	100				
成果目標及び成果実績 (アウトカム)	成果指標			<div>単位</div> <div>成果実績</div> <div>達成度</div>	21年度	22年度	23年度	目標値 (年度)	
	国際機関による資源管理対象魚種及び漁業協定数				81 51 (81) (51)	81 51 (81) (51)	87 52 (87) (52)	87 52	
					%	100 100	107.4 102.0	100 100	
活動指標及び活動実績 (アウトプット)	活動指標			<div>単位</div> <div>活動実績 (当初見込み)</div>	21年度	22年度	23年度	24年度活動見込	
	検討会の開催回数				回数	5 (5)	5 (5)	5 (5)	- (5)
単位当たりコスト	2,010,200円(平成23年度実績)			算出根拠	単位当たりコスト＝検討会開催費用／検討会開催回数 2,116,000円(平成22年度実績) 2,240,700円(平成21年度実績)				
平成24・25年度予算内訳	費目	24年度当初予算	25年度要求	主な増減理由					
	国際動向調査費	7.1	-						
	国内体制構築費	2.5	-						
計	10								

事業所管部局による点検			
	評価	項目	評価に関する説明
目的・予算の状況	○	広く国民のニーズがあり、優先度が高い事業であるか。	
	○	国が実施すべき事業であるか。地方自治体、民間等に委ねるべき事業となっていないか。	
	－	不用率が大きい場合は、その理由を把握しているか。	
資金の流れ、使途・費目	×	支出先の選定は妥当か。競争性が確保されているか。	一者応札であった。理由としては、事業自体が専門的なものであるため、実行不可能と判断したと考えられる。
	○	単位あたりコストの削減に努めているか。その水準は妥当か。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	－	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	
活動実績、成果実績	○	他の手段と比較して実効性の高い手段となっているか。	
	○	適切な成果目標を立て、その達成度は着実に向上しているか。	
	○	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	
	－	類似の事業があるか。その場合、他部局・他府省等と適切な役割分担となっているか。	
		※類似事業名とその所管部局・府省名	
点検結果	○	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	
<p>①支出先の選定における競争性・透明性の一層の向上を図るため、類似の事業者アンケート調査を実施し、平成24年度事業の公募に当たっては、公募の公示の掲示箇所を平成23年度と同様2箇所にした。</p> <p>②平成24年度予算において、前年度比503千円の予算減を行っており効率的なものとなっている。</p> <p>③本事業による調査・分析の成果は、漁業における生物多様性に係る国際的な議論への我が国の対応に有効に活用された。国際会議等において、漁業活動の規制を必要以上に強化しようとする動きがますます強くなっている中で水産資源の持続的な利用が阻害されるような決定が行われないよう、漁業をめぐる国際的な動向についての情報収集を行うものであり、国が実施すべき事業であるとともに水産資源を利用する我が国国民にとって優先度が高い事業である。</p>			
予算監視・効率化チームの所見			
上記の予算監視・効率化チームの所見を踏まえた改善点(概算要求における反映状況等)			
補記（過去に事業仕分け・提言型政策仕分け・公開プロセス等の対象となっている場合はその結果も記載）			
関連する過去のレビューシートの事業番号			
平成22年行政事業レビュー		平成23年行政事業レビュー	

※平成23年度実績を記入

農林水産省
10百万円



【総合評価入札委託】（1/1）

社団法人 自然資源保全協会
10百万円

- 国際的議論の動向や各種規制に関する提案の背景等の詳細な調査・分析
- 各種規制等の漁業活動への影響評価、
- 国際的な対応体制の構築等
- 漁協やNPO等が行う漁場環境保全や生物多様性保全に係る活動の推進
- 混獲回避措置の導入や浸透を図るための普及啓発
- 希少水生生物の保全等に係る国際議論に対応できるような国内の情報収集及び体制構築

資金の流れ
（資金の受け
取り先が何を
行っているか
について補足
する）（単
位：百万円）

費目・使途 (「資金の流れ」 においてブロックごとに最大の 金額が支出されている者について 記載する。費目と使途の双方 で実情が分かるように記載)	A. 社団法人 自然資源保全協会			E.		
	費 目	使 途	金 額 (百万円)	費 目	使 途	金 額 (百万円)
	賃金	CITES等の国際会議での議論の動向や提案の背景等の詳細な調査、解析にかかる人件費	6.3			
	旅費	CITES等の国際会議等出席に係る旅費、委員等旅費・謝金	2.9			
	その他	印刷製本費、消耗品の購入費、会場借料、通信運搬費	0.8			
	計		10	計		0
	B.			F.		
	費 目	使 途	金 額 (百万円)	費 目	使 途	金 額 (百万円)
	計		0	計		0
	C.			G.		
	費 目	使 途	金 額 (百万円)	費 目	使 途	金 額 (百万円)
	計		0	計		0
	D.			H.		
	費 目	使 途	金 額 (百万円)	費 目	使 途	金 額 (百万円)
	計		0	計		0

支出先上位10者リスト

A.

	支 出 先	業 務 概 要	支 出 額 (百万円)	入札者数	落札率
1	社団法人自然資源保全協会	CITES等の国際会議での議論の動向や提案の背景等の詳細な調査、解析等	10	1	100%
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					

B.

	支 出 先	業 務 概 要	支 出 額 (百万円)	入札者数	落札率
1					
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					